

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成26年12月4日
タイトル	焼芋パーティーしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成26年11月21日（金）福山市多治米町の福山市立多治米保育所の児童144名が、多治米保育所園庭と隣接する水土里ネット福山 副理事長 井藤富男さんのほ場で「焼芋パーティー」をしました。

井藤富男さんと地域の方が協力して子ども達と植付し、収穫したサツマイモを使い焼芋を作りました。晴天に恵まれ風もなく温かい陽気のなか、元気いっぱい子ども達と賑やかに行われました。



井藤富男さんのほ場では、籾殻を使った「すくも」に、朝4時から火を入れ準備しておられました。「すくも」からでる煙の香りは、懐かしい香りでした。

子ども達は、園庭でサツマイモを二つ選び、まずタライで洗って泥を落とします。その後、水道水できれいに洗い、食べたい方をアルミホイルで巻いて名前を書きます。もう一つは、先生へ渡しました。

最初は、水が冷たいので「つめたーい」と言いながら洗っていましたが、すぐに真剣になって、手で撫でながら上手に洗って泥を落としていました。見ていると、大きな芋を選ぶ子や小さな芋を選ぶ子がいて、子どもなりに自分の食べられる量を考えて選んでいるようでした。

アルミホイルで巻くときは「芋が出ないように巻きましょう」と先生に教えてもらい、芋を縦にしたり、横にしたりして考えて巻いていました。



子ども達は、焼芋が待ちきれないようで、みんなで焼芋の歌を歌って待っていました。

全員分用意できたら、いよいよ「すくも」へ芋を入れにいきます。近くまでみんなで行くと、4、5人ずつ「すくも」の周りに近づき芋を投げ入れます。上手にポイッと入れていました。みんなで芋を入れたら「おいしく焼けますようにお願いします」と、みんなで手を合わせていました。



稲の籾殻がすくもになるんだよ！

焼芋おいしくなりますように！

1時間から2時間くらいで、「すくも」から焼芋を掘り出してみると、熱々のホクホクに焼けていて焼芋の甘い、いい香りが広がりました。

子ども達は、自分の名前が書いてある焼芋を食べました。皮を丁寧にはがしている子や「皮ごと食べる」と言って頬張っている子がいました。みんな「おいしい」と言って、おかわりを食べている子もいました。



おいしそうに焼けています。

「すくも」で焼芋をすると、アルミホイルが焦げたりせず、名前もちゃんと読めるので、びっくりしました。

子ども達は、みんな笑顔でおいしそうに、上手にアルミホイルと芋の皮をむいで食べていました。

